谷村愛之助

い秀雄

君 君

作 作 Ж 詇

紅塵絶え を北た の 海が 世を越え来な に 三 百 里 に こ 百 里 て空潔 介れば

蕭々とし 大ting 1 我北州の島と凝る の 精鍾 して水寒し まりて

> 四 季 吹^ふ 雪^ぁ 0) 下蔭草繁る 燃ゆる蔦葛

の変遷 興添えて は叫ぶ冬の夜半

め は飽かぬ姿かな

朝きぎり の白玉散り乱 駒の跡追へば き野の

る

面も

群吼ゆ

る荒潮

我北州の島に見る ^{別がほくしっ} しま み 原始の儘の 俤 を

の幸謳ふかな ウの土を払ふ時 の畑たそがれて

> 古嚢は盛らず新酒な 見よ文明は北進す ^{み ※xxxx} ^{ほくしん} 濁に 新文明の建設は 地は広漠の沖積層 れ たる大河の片辺のたいがのかたほどり .る都にあらずし を

そ

我れ 真摯素樸 が使命成し遂げん の光照す可く の秘奥探る可く 0 の国とせず 郷きゃっち となし

鈴ずらん

薫る春 ロック 野っ

辺ベ